

# 論壇

## 過度に防衛的になる日本

1930年代の世界大恐慌の頃、米国の大統領が次のような発言をしたと言われている。「この不況の中で本当の恐怖は人々の恐怖心である」と。景気がどんどん悪化して経済が大変になるという恐怖感があるが、そうした中で人々が恐怖心を持って支出を抑えることが、景気悪化の最大の要因であるということだ。

恐怖心というかどうかは別として、今の日本でも、人々が過度に防衛的になっていることが、経済の回復を妨げる最大の要因となっている。国民は将来に大きな不安

伊藤 元重

学習院大教授(国際経済学)

を抱えていると、マスコミもおおる傾向がある。だから企業は投資を控えるし、消費も伸びない。そうした中で貯蓄はかき増えている。これでは景気が本格的に回復するはずはない。

日本の企業の多くは利益を増やしている。それでもその利益を投資や賃上げに回さないのが、企業

### 「企業の行動」経済回復の鍵

には膨大な貯蓄がたまっていく。なぜ投資をしないのかと聞けば、経済の先行きに不安があり、投資をしても利益で回収できる見込みがないから、という答えが返ってくる。

なぜもっと賃金を上げないのかと聞くと、今は賃上げができてい

る。将来景気が悪くなった時賃金を下げるのが難しいからだと言。この景気は一時的であり、今は大幅に賃上げをする時期ではないと考えているようだ。こうした企業の弱気の姿勢が、賃

金上昇の大きな障害になっている。日本の企業の利益は史上最高益

を更新するような勢いなのに、日

本の労働分配率(経済全体の所得の中の労働者の取り分)は大幅な低下を続けている。そう言つと、海外の専門家から驚かれることがある。しかし、それが悲観的な見

方がまん延している日本経済の現状である。バブルが崩壊してから

20年近く景気低迷が続いている日本では、企業も消費者も悲観的な見方から抜け出せないのかもしれない。

### 膨大な手元資金を抱えて

ただ、世界経済は久しぶりの本格的な景気回復を迎えようとしている。株価や雇用の数字が良いのは日本だけではない。米国も欧州も新興国も、昨年の後半ぐらいから景気の回復が顕著になっている。日本経済もそうした世界経済

の回復の恩恵を受けており、それが日本の株価などに反映されている。そうした中でも、過度に悲観的な見方にとらわれている国民や日本企業の行動が日本経済の足を引っ張っている。残念なことである。

さて、この先の日本経済の見通しはどうかだろうか。不確実な要因はいろいろあるものの、企業の行動が日本経済の回復の大きな鍵を握っていることは間違いない。膨大な手元資金を抱えている企業が、人材不足を解消するために大幅な賃上げに踏み切るのか、そして人材への投資も含めて大規模な投資に踏み切るのか。こうした企業の動きが日本経済の回復の鍵を握っているのだ。

お金がないのなら諦めもつく。しかし、膨大な手元資金を抱えながらもそれを投資や賃上げに回さないことで経済の低迷が続くというのでは、なんとも残念なことだ。今後の賃上げや投資の動きに注目したいと思う。

\*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。